

問1 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について。正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されることを目的とする生命関連製品ではない。
- b 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較して保健衛生上のリスクは相対的に高い。
- c 一般用医薬品には、添付文書や製品表示に必要な情報が記載されているので、販売時に専門家が専門用語を分かりやすい表現で伝えるなどの情報提供を行う必要はない。
- d 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、必ずしも期待される有益な効果（薬効）のみをもたらすとは限らない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問2 第1欄の記述は、医薬品のリスク評価に関するものである。（ ）の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

新規で開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化制定の流れのなかで、個々の医薬品の用量-反応関係に基づいて、（ ）に準拠して薬効-薬理試験や一般薬理作用試験の他に、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、単回投与毒性試験、抗原性試験、局所刺激性試験、皮膚感作性試験、皮膚光感作性試験などの毒性試験が厳格に実施されている。

第2欄

- 1 Good Clinical Practice (GCP)
- 2 Good Laboratory Practice (GLP)
- 3 Good Post-marketing Study Practice (GPSP)
- 4 Good Vigilance Practice (GVP)
- 5 Good Manufacturing Practice (GMP)

問3 第1欄の記述は、健康食品に関するものである。()の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。なお、()内はすべて同じ字句が入る。

第1欄

平成27年4月より()制度が施行された。()は、疾病に罹患していない者の健康維持及び増進に役立つ旨又は適する旨(疾病リスクの低減に係るものを除く。)を表示するものである。

第2欄

- 1 栄養機能食品 2 機能性表示食品 3 特定保健用食品
4 健康補助食品 5 保健機能食品

問4 次の記述は、健康食品に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 健康食品は、医薬品と同様に、疾病の治療や予防に対する効果を表示することができる。
b キシリトールを含む食品は、「虫歯を治す商品です」と表示することができる。
c 栄養機能食品は、各種ビタミン、ミネラルに対して栄養機能の表示ができる。
d 健康補助食品は、カプセル、錠剤等の医薬品と類似した形状で販売されているものも多く、誤った使用方法により健康被害を生じた例が報告されている。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問5 次の記述は、医薬品の作用に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 世界保健機関（WHO）の定義によれば、副作用は「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。
- b 薬物が生体の生理機能に影響を与えることを薬理作用という。
- c 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべて解明されている。
- d 医薬品のアレルギーは内服薬によって引き起こされるものであり、外用薬によって引き起こされることはない。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問6 医薬品の不適正な使用と有害事象に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 青少年は、好奇心から一般用医薬品を興味本位で乱用することがあるので、注意が必要である。
- b 医薬品の不適正な使用は、使用する人の誤解や認識不足による使用と、本来の目的以外の意図による使用の概ね2つに大別することができる。
- c 医薬品は安全であるため、乱用されたとしても薬物依存から離脱することは容易である。
- d 手軽に入手できる一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和するだけの対処を漫然と続けているような場合には、適切な治療の機会を失うことにつながりやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問7 次の記述は、一般用医薬品の販売に関するものである。以下のような購入者に対する対応について、正しいものの組み合わせはどれか。

成人男性が、ドラッグストア（店舗販売業）に来店した。かぜ様症状のため、解熱鎮痛薬と鎮咳去痰薬を購入しようと相談カウンターにやって来た。これらの医薬品を使用するにあたり、注意事項を教えてほしいとの相談があった。

- a 有効成分に関係なく、解熱鎮痛薬と鎮咳去痰薬を併用しても問題ないと説明する。
- b 有効成分によっては、コーヒーと一緒に服用すると、過剰摂取となるものがあることを説明する。
- c 医療機関・薬局から交付された薬剤を使用している場合は、登録販売者が併用可能か判断する。
- d 購入しようとしている解熱鎮痛薬や鎮咳去痰薬の使用者を確認し、使用者の医薬品の使用状況を踏まえて、必要な種類・量の医薬品を販売する。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問8 次の記述は、副作用に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用した場合には、期待される有益な反応（主作用）以外の反応が現れることがあり、その中で好ましくないものについては一般に副作用という。
- b 添加物は基本的に薬理作用がないので、アレルギーを引き起こす原因物質とはなり得ない。
- c 医薬品を使用する人が副作用をその初期段階で認識することにより、重篤化が回避されることが重要となる。
- d 副作用は、直ちに明確な自覚症状として現れるので、服用直後に特段の異常が感じられる場合にのみ医療機関を受診すればよい。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問9 小児等への配慮に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。
- 2 医薬品の販売に従事する専門家は、保護者等に対して、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるように説明する。
- 3 乳児向けの用法用量が設定されている医薬品であれば、乳児は医薬品の使用により状態が急変することはない。
- 4 一般用医薬品は、誤飲・誤用事故の場合でも、想定しがたい事態につながるおそれがないので安全に使用できる。

問10 高齢者に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強く現れやすい。
- b 基礎体力や生理機能の衰えの度合いは個人差が小さいため、年齢から副作用発生リスクを判断することは容易である。
- c 医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすいなどの傾向があるため、家族や周囲の人(介護関係者等)の理解や協力が重要となる。
- d 医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合があり、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	誤

問 11 妊婦又は妊娠していると思われる女性に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a 妊娠の有無やその可能性については、購入者側にとって他人に知られたくない場合もあることから、一般用医薬品の販売等において専門家は、情報提供や相談対応を行う際に妊娠の有無やその可能性について聞き取る必要はない。

b 便秘薬は配合成分やその用量により、流産や早産を誘発するおそれがある。

c 体の変調や不調に対して、一般用医薬品を使用することにより症状を緩和したいという相談があった場合、一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、その対処が適切かどうかを含めて慎重に考慮する必要がある。

d 胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組みのことを血液-脳関門という。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 12 次の記述は、妊婦又は妊娠していると思われる女性、授乳婦に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

a コデインリン酸塩水和物は、授乳中の人も使用することができる。

b ビタミンA含有製剤のように、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が低くなるとされているものがある。

c 一般用医薬品において、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が困難である。

d 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 13 医療機関で治療を受けている人等への配慮に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生活習慣病等の慢性疾患を持つ者において、疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える要因となることがある。
- b 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人については、登録販売者において一般用医薬品との併用の可否を判断することは容易なことが多い。
- c 医療機関での治療を特に受けていない場合であっても、医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるおそれがある。
- d 過去に医療機関で治療を受けていた（今は治療を受けていない）という場合には、どのような疾患について、いつ頃かかっていたのか（いつ頃治癒したのか）を踏まえた情報提供がなされることが重要である。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |

問 14 次の記述は、プラセボ効果に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待は関与しないと考えられている。
- b プラセボ効果は、時間経過による自然発生的な変化が関与して生じる場合がある。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、不都合なものはない。
- d プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 15 次の記述は、医薬品の品質に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、購入した後すぐに使用されるとは限らないため、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売することが重要である。
- b 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- c 表示されている「使用期限」は、開封した状態で保管した場合に品質が保持される期限である。
- d 医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれていれば、環境に留意する必要はない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 16 一般用医薬品で対処可能な症状の範囲に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、医薬品医療機器等法において「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの」と定義される。
- b セルフメディケーションの主役は一般の生活者である。
- c 症状が重いときに一般用医薬品を使用することは、その役割にかんがみて適切な対処とはいえないため、一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、医療機関の受診を勧める必要がある。
- d 一般用医薬品の役割は、医療機関での治療を受けるほどではない体調の不調や疾病の初期段階、あるいは日常において、生活者が自らの疾病の治療、予防又は生活の質の改善・向上を図ることである。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問 17 次の記述は、一般用医薬品の販売に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 購入者が、自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して適正に使用するよう、働きかけていくことが重要である。
- b 購入者から確認しておきたい基本的なポイントのひとつとして、「その医薬品を使用するのは情報提供を受けている本人か、又はその家族等が想定されるか」が挙げられる。
- c 情報提供を受ける購入者が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状等がある場合には、言葉によるコミュニケーションから得られる情報が最も信頼できるので、その人の状態や様子全般から得られる情報は必要がない。
- d 生活者のセルフメディケーションに対して、登録販売者は、第一類医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、支援していくという姿勢で臨むことが基本となる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 18 成人女性が、ドラッグストア（店舗販売業）に来店した。かぜ様症状のため一般用医薬品を購入しようとしている。登録販売者が購入者から確認すべき事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用の経験の有無
- b 他の医薬品の使用の有無
- c 発症時期
- d アレルギーの経験の有無

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	正

問 19 薬害に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の販売に従事する者は、薬害事件の歴史を十分に理解し、健康被害の拡大防止に関して、その責務の一端を担っていることを肝に銘じておく必要がある。
- b サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。
- c 薬害は、医薬品を十分注意して使用すれば起こり得ないものである。
- d キノホルム製剤については、一般用医薬品として販売されていた製品がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 20 薬害に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れ、麻痺は上半身にも拡がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。
- 2 サリドマイド訴訟は、催眠鎮静成分として承認されたサリドマイドが原因で亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 3 HIV訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルスが混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- 4 クロイツフェルト・ヤコブ病は、ウイルスの一種であるプリオンが脳の組織に感染することによって発症する。

問 21 かぜ（感冒）等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜは単一の疾患ではなく、上気道の急性炎症の総称で、通常は数日～1週間程度で自然寛解する。
- b かぜの約8割は細菌の感染が原因である。
- c かぜとよく似た症状が現れる疾患に、リウマチ熱、肺結核、髄膜炎がある。
- d インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同程度の感染力であるが、重症化しやすい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問 22 次の表はあるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

6錠中

イブプロフェン	450mg
ジヒドロコデインリン酸塩	24mg
ノスカピン	48mg
d l-メチルエフェドリン塩酸塩	60mg
L-カルボシステイン	750mg
グリチルリチン酸	39mg
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	3.5mg
無水カフェイン	75mg
ベンフォチアミン（ビタミンB1誘導体）	25mg

このかぜ薬に含まれている成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- | | |
|---------------------|----------------|
| a イブプロフェン | — くしゃみや鼻汁を抑える |
| b ノスカピン | — 咳を抑える |
| c グリチルリチン酸 | — 炎症による腫れを和らげる |
| d d-クロルフェニラミンマレイン酸塩 | — 発熱を鎮める |

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 23 以下の解熱鎮痛成分に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

アスピリン、サザピリン等を総称して (a) 解熱鎮痛成分という。アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしやすく、アスピリンアルミニウム等として胃粘膜への悪影響の軽減を図っている製品もある。

アスピリンは、まれに重篤な副作用として (b) を生じることがある。

	a	b
1	ピリン系	甲状腺機能低下症
2	サリチル酸系	甲状腺機能低下症
3	ピリン系	肝機能障害
4	サリチル酸系	肝機能障害
5	ピリン系	血栓症

問 24 眠気を促す薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a ジフェンヒドラミン塩酸塩を含有する医薬品は、慢性的に不眠症状がある人を対象として用いられる。

b プロモバレリル尿素は、反復して服用すると依存を生じることがある。

c 加味帰脾湯は、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜泣き、小児疳症、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適すとされる。

d 桂枝加竜骨牡蛎湯は、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱意を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問 25 カフェインに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- 2 腎臓におけるカリウムイオンの再吸収抑制作用があり、尿量の増加をもたらす。
- 3 反復摂取により依存を形成するという性質があるため、「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」という注意喚起がなされている。
- 4 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして200mg、1日摂取量はカフェインとして500mgが上限とされている。

問 26 次の記述は、乗物酔い防止薬の配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）を調節する作用を示す。
- b ジプロフィリンは、専ら乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
- c スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、肝臓で速やかに代謝されてしまうため、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間は短い。
- d ジメンヒドリナートは、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 27 糖尿病の診断を受けている者から、表の成分を含む鎮咳去痰薬を購入したいと登録販売者に相談があった。

1包（1g）中

メトキシフェナミン塩酸塩	50mg
ノスカピン	20mg
カンゾウ粗エキス	66mg
	（カンゾウ330mgに相当）
グアヤコールスルホン酸カリウム	90mg
無水カフェイン	50mg
マレイン酸カルビノキサミン	4mg

次の1～5で示される配合成分のうち、糖尿病の症状を悪化させるおそれのあるものはどれか。

- 1 メトキシフェナミン塩酸塩
- 2 ノスカピン
- 3 カンゾウ粗エキス
- 4 グアヤコールスルホン酸カリウム
- 5 マレイン酸カルビノキサミン

問 28 鎮咳去痰薬の配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ジメモルファンリン酸塩は、長期連用や大量摂取によって倦怠感や虚脱感、多幸感等が現れることがあり、薬物依存につながるおそれがある。
- 2 ジヒドロコデインリン酸塩は、胃腸の運動を低下させることがある。
- 3 グアイフェネシンは、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる作用がある。
- 4 キキョウは、体内で分解されて生じた代謝物の一部が延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を鎮静させる作用がある。

問 29 口腔咽喉薬及び含嗽薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡るよう、口中に含み、噛み砕いて使用する。
- b 噴射式の液剤は、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- c 含嗽薬は、調製した濃度が濃いと効果がより一層得られる。
- d 口腔咽喉薬は、成分の一部が口腔や咽頭の粘膜から吸収されて循環血流中に入りやすく、全身的な影響を生じることがあるため、配合成分によっては注意を要する。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	誤	誤	誤

問 30 次の記述は、口腔咽喉薬及び含嗽薬の配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a トラネキサム酸は、声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮めることを目的として用いられる。
- b セチルピリジニウム塩化物は、鶏卵アレルギーの既往歴がある人では使用を避ける必要がある。
- c アズレンスルホン酸ナトリウムは、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させ、その増殖を抑えることを目的として用いられる。
- d ラタニアは、咽頭粘膜を収斂させる作用がある。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 31 ヨウ素系殺菌消毒成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ポビドンヨードは、アナフィラキシーのような全身性の重篤な副作用を生じることはない。
- 2 口腔内に使用される場合は、甲状腺におけるホルモン産生に影響しない。
- 3 妊娠中に摂取されたヨウ素は、胎児に移行しない。
- 4 ヨウ素は、レモン汁やお茶に含まれるビタミンCと反応すると脱色が生じ、殺菌作用が失われる。

問 32 この表はある胃腸薬に含まれている成分の一覧である。

3包中

ゲファルナート	150mg
アズレンスルホン酸ナトリウム	6mg
L-グルタミン	400mg
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	2268mg
ロートエキス散（10倍散）	300mg
ショウキョウ末	150mg

次の1～5で示される配合成分のうち、透析を受けている人が使用を避ける必要がある成分はどれか。

- 1 ゲファルナート
- 2 アズレンスルホン酸ナトリウム
- 3 L-グルタミン
- 4 メタケイ酸アルミン酸マグネシウム
- 5 ロートエキス

問 33 次の記述は、腸の薬の配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a タンニン酸ベルベリンは、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
- b アクリノールは、抗菌作用を期待して用いられる。
- c 酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増す作用がある。
- d センナから抽出された成分であるセンノシドは、小腸を刺激して排便を促すことを目的として用いられる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問 34 第 1 欄の記述は、胃腸に作用する薬に関するものである。第 1 欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

体力中等度以上で、胃がもたれて消化が悪く、ときに吐きけ、食後に腹が鳴って下痢の傾向のある人における食べすぎによる胃のもたれ、急・慢性胃炎、消化不良、食欲不振に適すとされる。急性胃炎に用いる場合には、漫然と長期の使用は避け、5～6回使用しても症状の改善がみられないときは、いったん使用を中止して専門家に相談がなされるなどの対応が必要である。

第 2 欄

- 1 安中散 2 人参湯（理中丸） 3 平胃散 4 六君子湯
- 5 桂枝加朮附湯

問 35 浣腸薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 浣腸薬は、繰り返し使用すると直腸の感受性の低下が生じて効果が弱くなり医薬品の使用に頼りがちになるため、連用しないこととされている。
- b 注入剤を半量使用する場合は、残量を密封し冷蔵保存することで安全に再利用することができる。
- c ビサコジルは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。
- d ソルビトールは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	正	誤
5	正	誤	誤	誤

問 36 次の記述は、強心薬に含まれる配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品に含有されるセンソは、1日用量が5mgを超えるように用法・用量が定められている。
- b ジャコウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高め、意識をはっきりさせる作用を期待して用いられる。
- c シンジュは、鎮静作用を期待して用いられる。
- d リュウノウは、心筋に直接刺激を与え、強心作用を期待して用いられる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問 37 コレステロールに関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 コレステロールの産生及び代謝は、主として肝臓で行われる。
- 2 水に溶解しやすい物質であるため、血液中では血漿タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。
- 3 血漿中のリポタンパク質のバランスの乱れは、生活習慣病を生じる以前の段階から自覚症状を伴うものが多い。
- 4 食事から摂取されたタンパク質及びビタミンから主に産生される。

問 38 次の記述は、コレステロール改善薬の配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a ソイステロールは、低密度リポタンパク質の異化排泄を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質産生を高める作用があるとされる。
- b リノール酸は、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c リボフラビン酪酸エステルは、コレステロールの生合成抑制と排泄・異化促進作用、中性脂肪抑制作用、過酸化脂質分解作用を有すると言われている。
- d トコフェロール酢酸エステルは、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害の緩和を目的として用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 39 貧血及び貧血用薬とその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄分は、白血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルである。
- b 体の成長が著しい年長乳児や幼児、月経血損失のある女性、鉄要求量の増加する妊婦・母乳を与える女性では、鉄欠乏状態を生じやすい。
- c 鉄製剤は、消化器系への副作用を軽減するために、食後に服用することが望ましい。
- d 鉄製剤は、服用の前後30分にタンニン酸を含む飲食物を摂取すると、吸収が悪くなることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	正	正

問 40 循環器用薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ユビデカレノンは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされる。
- 2 ルチンは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
- 3 ヘプロニカートは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- 4 七物降下湯は、構成生薬としてダイオウを含み、本剤を使用している間は、瀉下薬の使用を避ける必要がある。

問 41 次の記述は、痔の薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 局所への穏やかな刺激によって痒みを抑える効果を期待して、熱感刺激を生じさせるクロタミトンが配合されている場合がある。
- b 粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として、酸化亜鉛が配合されている場合がある。
- c 痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、組織修復成分であるエフェドリン塩酸塩が配合されていることがある。
- d カイカクは、主に麻酔作用を期待して用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 42 第 1 欄の記述は、内用痔疾用薬として使用される漢方処方製剤に関するものである。第 1 欄の記述に該当する漢方処方製剤として正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

体力中等度以下で冷え症で、出血傾向があり胃腸障害のないものの痔出血、貧血、月経異常・不正出血、皮下出血に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第 2 欄

- 1 桂枝加芍薬湯 2 乙字湯 3 芎帰膠艾湯 4 七物降下湯
- 5 八味地黄丸

問 43 婦人薬の代表的な配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鎮痛・鎮痙の作用を期待して、シクヤク、ボタンピが配合されている場合がある。
- b エチニルエストラジオールは、長期連用することにより、血栓症を生じるおそれがある。
- c 鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して、サフランが配合されている場合がある。
- d センキュウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強社、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 44 婦人薬として使用される漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a 桃核承気湯は体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適すとされる。

b 桂枝茯苓丸は、体力中等度以下でのぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症、不眠症に適すとされる。

c 五積散は、体力中等度又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされる。

d 柴胡桂枝乾姜湯は、体力中等度以下で、冷え症、貧血気味、神経過敏で、動悸、息切れ、ときに寝汗、頭部の発汗、口の渇きがあるものの更年期障害、血の道症、不眠症、神経症、動悸、息切れ、かぜの後期の症状、気管支炎に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 45 アレルギー及びアレルギー用薬（鼻炎用内服薬も含む。）に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1 一般用医薬品には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹の治療に用いることを目的とするものがある。

2 皮膚感染症（たむし、疥癬等）により、湿疹やかぶれ等に似た症状が現れた場合、アレルギー用薬で一時的に痒みの緩和を図ることは適当でなく、皮膚感染症そのものに対する対処を優先する必要がある。

3 アレルギー用薬と鼻炎用点鼻薬でも同じ成分又は同種の作用を有する成分が重複することもあり、それらは相互に影響し合わないとの誤った認識に基づいて、併用されることのないよう注意が必要である。

4 皮膚症状が治まると喘息が現れるというように、種々のアレルギー症状が連鎖的に現れることがある。

問 46 内服アレルギー用薬及びその配合成分と使用上の注意の組み合わせについて、正しいものの組み合わせはどれか。

内服アレルギー用薬及びその配合成分		使用上の注意
a ジフェンヒドラミン塩酸塩	—	授乳中の方は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること
b メキタジン	—	まれに重篤な副作用として胃潰瘍が起こることがある
c 辛夷清肺湯	—	まれに重篤な副作用として間質性肺炎が現れることがある
d プソイドエフェドリン塩酸塩	—	低血圧の診断を受けた方は、服用を避けること

問 47 鼻炎用点鼻薬とその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鼻炎用点鼻薬は、慢性鼻炎、アレルギー性鼻炎又は副鼻腔炎による諸症状のうち、鼻づまり、鼻みず、くしゃみ、頭重の緩和を目的としている。
- b ナファゾリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまりがひどくなりやすい。
- c ベンザルコニウム塩化物は、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌又はカンジダ等の真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。
- d クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、花粉、ハウスダスト等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として配合される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問 48 次の表は、ある点眼薬に含まれている成分の一覧である。

クロルフェニラミンマレイン酸塩	0.03%
グリチルリチン酸二カリウム	0.25%
イプシロン-アミノカプロン酸	1.0%
テトラヒドロゾリン塩酸塩	0.03%
タウリン	1.0%
パンテノール	0.1%

この点眼薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a クロルフェニラミンマレイン酸塩は、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して用いられる。
- b グリチルリチン酸二カリウムは、比較的緩和な抗炎症作用を示す成分として用いられる。
- c イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- d パンテノールは、末梢の微小循環を促進させることにより、結膜充血、疲れ目の症状を改善する効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

問 49 次の記述は、目に用いる医薬品等に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 1滴の薬液の量は約50 μ Lであるのに対して、結膜嚢の容積は30 μ L程度とされており、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではない。
- b アドレナリン作動成分は、緑内障と診断された人では、眼圧の上昇をまねき、緑内障を悪化させたり、その治療を妨げるおそれがある。
- c ハードコンタクトレンズは水分を含みやすく、防腐剤などの配合成分がレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがあるため、装着したままの点眼は避けることとされている製品が多い。
- d サルファ剤は、ブドウ球菌、連鎖球菌及びウイルスに対して効果がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 50 痒み、腫れ、痛み等を抑える外皮用薬の配合成分に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ヒドロコルチゾンの好ましくない作用として、末梢組織の免疫機能を低下させる作用を示し、細菌、真菌、ウイルスによる皮膚感染や持続的な刺激感の副作用が現れることがある。
- 2 ピロキシカムは、光線過敏症の副作用を生じることがあり、野外活動が多い人では、他の抗炎症成分が配合された製品を選択することが望ましい。
- 3 皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す効果を期待して、ユーカリ油が配合されている場合がある。
- 4 ヘパリン類似物質には、血液凝固を抑える働きがあるため、出血しやすい人、出血が止まりにくい人、出血性血液疾患の診断を受けた人では、使用を避ける必要がある。

問 51 抗真菌作用を有する成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ウンデシレン酸亜鉛は、患部をアルカリ性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- b オキシコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- c ピロールニトリンは、抗真菌作用が強いため、単独で用いられる。
- d テルビナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 52 次の記述は、毛髪用薬とその配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a カルプロニウム塩化物は、末梢組織（適用局所）において、抗コリン作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- b 毛髪用薬のうち、配合成分やその分量等にかんがみて人体に対する作用が緩和なものについては、医薬部外品（育毛剤、養毛剤）として製造販売されている。
- c チクセツニンジン は、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
- d ヒノキチオールは、抗菌、血行促進、抗炎症の作用を期待して用いられる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 53 歯痛薬及び歯槽膿漏薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アラントインは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して配合される。
- b カンフルは、冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺させることによる鎮痛・鎮痒の効果を期待して配合される。
- c アミノ安息香酸エチルは、齶蝕により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として配合される。
- d フィトナジオンは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問 54 以下のニコチン及び禁煙補助剤に関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

タバコの煙に含まれるニコチンは、肺胞の毛細血管から血液中に取り込まれると、すみやかに脳内に到達し、脳の情動を司る部位に働いて (a)、リラックス効果などをもたらす。また、ニコチンは (b) を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を (c) させるおそれがある。口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が (d) するため、禁煙補助剤 (咀嚼剤) を使用する際には注意が必要である。

	a	b	c	d
1	覚醒	副交感神経系	増強	増加
2	覚醒	交感神経系	減弱	低下
3	鎮静	交感神経系	増強	増加
4	鎮静	副交感神経系	減弱	増加
5	覚醒	交感神経系	増強	低下

問 55 滋養強壮保健薬とその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB1は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために用いられる。
- b ビオチンは、皮膚や粘膜などの機能を維持することを助ける栄養素として配合されている場合がある。
- c グルクロノラクトンは、生体におけるエネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
- d 補中益気湯は、体力虚弱で元気がなく、胃腸の働きが衰えて、疲れやすいものの虚弱体質、疲労倦怠、病後・術後の衰弱、食欲不振、寝汗、感冒に適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

問 56 次のうち、非ステロイド性抗炎症成分として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a デキサメタゾン
- b ウフェナマート
- c ケトプロフェン
- d ピロキシリン

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 57 次の記述は、代表的な生薬成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静の作用を期待して用いられる。
- b マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮痙の作用を期待して用いられる。
- c キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。
- d ツツラフジ科のオオツツラフジの蔓性の茎及び根茎を、通例、横切したものを基原とする生薬で、鎮痛、利尿の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	レンギョウ	ボウフウ	サイコ	ボウイ
2	レンギョウ	カクコン	ブシ	ショウマ
3	ブクリョウ	ボウフウ	サイコ	ショウマ
4	ブクリョウ	カクコン	ブシ	ボウイ

問 58 消毒薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a イソプロパノールは、ウイルスに対する不活性効果がエタノールに比べて高い。
- b クレゾール石鹼液は、原液を水で希釈して用いられるが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要がある。
- c 次亜塩素酸ナトリウムは、一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示すが、通常人体の消毒には用いられない。
- d ジクロルイソシアヌル酸ナトリウムは、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	正

問 59 第 1 欄の記述は、殺虫成分に関するものである。第 1 欄の記述に該当する殺虫成分として正しいものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

除虫菊の成分から開発された成分で、比較的速やかに自然分解して残効性が低いため、家庭用殺虫剤に広く用いられている。

第 2 欄

- 1 ダイアジノン 2 フェノトリン 3 メトプレン
4 プロポクスル 5 オルトジクロロベンゼン

問 60 次の記述は、妊娠検査薬に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 尿中ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の検出反応は、温度の影響を受けない。
b 検査結果が擬陽性を示す場合として、高濃度のタンパク尿や糖尿がある。
c 検査結果をもって直ちに妊娠しているか否かを断定することはできない。
d 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日の概ね 1 週間前の検査が推奨されている。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)